

## 【議事】推 9

### (1) 準天頂高精度測位実験の事前評価について

JAXA の吉富室長が資料 9-1-1 (コメントに対する回答) をじっくり説明した後、短いコメントがあった。続いて事務局の瀬下参事官補佐が資料 9-1-2 (報告書案) を説明した。その後、少々質疑応答が行われ、報告書案は承認された。

(青江部会長が発言を促したところ)

鈴木: 「追加説明により疑問点であったところが満たされた。」と云う趣旨の発言があった。

(青江部会長に促され、「報告書案」を説明)

廣澤: 「5.(2) システム選定及び基本設計要求」で、「搭載ミッション機器の主要なもの」として、「搭載原子時計」と「測位信号生成送信部」が記載されている。時計が開発品であるなら良いが、輸入品を指しているのであれば、削除しなければならない。

文科省瀬下: 削除します。

廣澤: 削除すると寂しい。

青江: 開発品で「信号生成装置」に次ぐ重要な物を記載してください。

水野: 「5.(1) 「評価その1」における助言に対する対応」のなお以下 (特別委員の助言) で、**余り民間を強調しないほうが良い。**<sup>1</sup>

青江: (過去の経緯から必要なことであると説明。)

---

<sup>1</sup> 特別委員の助言であり、その通りに書くか、掲載しないかの選択肢しかなく、語句の訂正はできない。

水野: **準天頂に限って<sup>2</sup>目**に付いたので指摘した。

文科省瀬下: その1のコメントに対する対応について述べており、他の衛星利用にも増して重要であるので記載した。

青江: **痛くない腹を探られる<sup>3</sup>**という意味ですか。

井口: 報告書には一枚紙を付けるのか。

(ここで言った一枚紙とは、LNGの説明資料であり、この発言をきっかけに報告書は承認され、LNGの審議に移行した。)

---

<sup>2</sup> 「リモセン」でも、観測データ利用に関して民間との協力を強調した記事が多い。

<sup>3</sup> 「痛い腹」だから「探られる」のが嫌なのではないか。発足時には民間の強いビジネス提案があって、このプロジェクトの提案が採用された。その後ビジネスの見通しが危うくなり、国が引き取ることになった。これは、プロジェクトが本来の姿に直ったと考える。準天頂軌道は静止軌道よりも窮屈な資源である。将来、軌道確保のための国際調整が必要になる。準天頂軌道に関する経験・データ蓄積により、国際調整の場で指導的役割に就けることは、わが国の外交的な力の一つになる。

<sup>3</sup> 基体制の早期実現より優先すべき課題があるかもしれない。今の準天頂軌道は、地表から見て8の字を描く。このほかに「おむすび」型の準天頂軌道がある。遠地点、近地点を東西に置くと「おむすび」になる。この軌道は静止軌道面を横切るとき、静止衛星より高い(または低い)所を通り、静止衛星と衝突する心配が無い。また、東西に隣接するもう一つの準天頂軌道とも、相互に高度差が取りやすいので、静止軌道と同じような密度に衛星を配置できるかもしれない。「おむすび」は「8の字」に比べ、天頂に長く留まっていないのが不利では有るが、密に配置できる利点も有る。実験を行ない、総合的に評価する必要がある。